

## 地区名：乾側地区

### 実施主体：乾側をよくする会

#### 1 基本データ

- 地区人口 917人（H31.4.1現在）
- 世帯数 332世帯
- 行政区数 8行政区
- 面積 約5.8平方キロメートル
- 地区の沿革

乾側地区は、市街地の北西部に位置し、地区西端にある花山峠を境に福井市に接し、地区中央の東西を国道158号線が横断しており、大野市の西の玄関口となっている。

8地区からなり戸数約220戸で、酒米と種籾産地として有名な純農村地域である。

#### 2 現状と課題

乾側地区は縄文時代から人々が住み始め、大野でも最初に開けた場所のひとつである。弥生時代や古墳時代には牛ヶ原を中心に大きな力を持った豪族が現れ、乾側地区内に多くの墓や古墳が作られた。中でも牛ヶ原の山ヶ鼻古墳群には奥越で唯一の前方後円墳があり、鉄剣や貨幣（和同開珎）も見つかっている。なお、大野盆地内の古墳のうち6割以上が乾側地区に集中している。

また、稲作が始まり、奈良時代には寺や貴族・豪族の土地である荘園が発達したが、牛ヶ原の荘園は、奈良時代には奈良東大寺領、平安時代には京都醍醐寺領として、今の大野市街地の北半分にまで広がっていた。その牛原荘には後に牛ヶ原城が築かれ、三社神社が建立された。なお、尾永見区には、稲作に縁の深い雨乞い踊りが無形民俗文化財として継承されている。

さらに、南北朝時代に築かれた戌山城は、金森長近によって越前大野城が築かれるまで、戦国時代の激動期を含め200年余りの間、大野とその周辺地域を治める斯波氏、朝倉氏の居城として、県内2番目の多さの畝掘数と奥越最大の規模を誇る山城であり、一乗谷城の東方面の軍

事拠点として重要な役割を果たしていた。

このように、乾側地区は古来、大野盆地の中でも最も歴史と伝統のある地域であり、その価値と魅力を高めるために、平22年度から3年間をかけて「みくら清水・戌山城址」及び「牛ヶ原城址・三社神社」の2コースの登山道整備を、平成25年度から登山道の継続整備を含めた史跡整備に取り組んでいる。

また、乾側の歴史に関心を深めて貰えるようマンガ調本「乾側歴史ものがたり」の発刊、乾側地区の史跡をマップに図示した「歴史ロマンの郷 乾側」と題した乾側史跡総合案内看板を制作している。

これまでに整備してきた史跡を含め、乾側の魅力をより分かりやすく紹介・案内できるようホームページとパンフレットを制作するなど、地域の魅力の再確認と情報発信に取り組んできた。

「残りたい、訪れたい、住みたい」と思えるような魅力ある地域づくりを行うには、今後、更なる地域資源の洗い直しや掘り起こしを行い、これまでに整備してきた史跡・伝統等を始めとする乾側の魅力を周知・継続発展させていくことに併せて、加速する地域の人口減少問題に対して、いかに取り組んでいくか、今後、重要課題となってくる。

#### 3 事業の内容

##### (1) 普及啓発・伝承事業

○乾側史跡巡りウォーク ※雨天中止

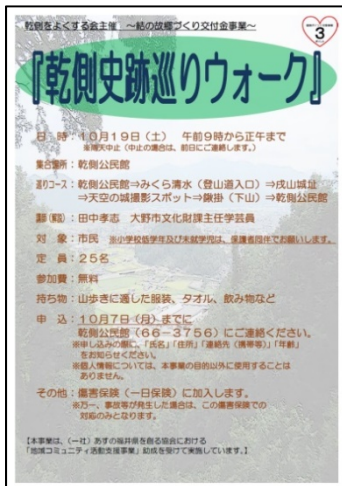
開催日時 令和元年10月19日（土）

午前9時～正午

参加予定者 9人

乾側地区の史跡を巡ることで、乾側地区の歴史を知り、その魅力を伝えることを目的とし企画している。

実施日前週の台風や当日の雨天予報により、足元が悪く危険を伴うと判断し、中止した。



史跡巡りウォークチラシ

○乾側魅力紹介HP更新

乾側地区を紹介したHPを更新した。

(2) 登山道・史跡整備事業

○戌山城址登山道補修

開催日時 令和元年10月12日(土)

※台風により延期

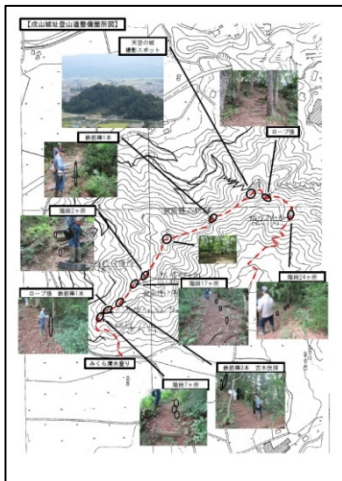
令和元年11月3日(日)

午後1時～

参加者 27人

乾側地区の史跡を整備する事業であり、牛ヶ原城址と戌山城址の登山道を隔年で整備している。

今年度は、戌山城址登山道の階段設置及び急勾配の箇所にはロープを設置している。当日は、二手に分かれ、みくら清水からと上丁からの登山道を整備した。



整備箇所図



登山道補修材料



作業(みくら清水側)



作業(上丁側)

(3) 観光促進事業

○乾側史跡総合案内看板修繕

JR牛ヶ原駅に設置している乾側史跡総合案内看板が、台風により破損したため、再設置した。再び破損することのないよう補強した構造とし修繕した。



破損状況



修繕後



ステージの様子（抽選会）

#### （4）地域活力事業

##### ○第4回いぬいかわ夏まつり

開催日時 令和元年8月10日（土）

午後6時から9時

来場者数 延べ約200人

昨年度来場者数が少なかった前夜祭を取りやめ、まつり当日を充実させている。夜店では、例年現金販売としていたが、調理しながら現金を扱うことやおつり等の手間を省くため、100円チケットを販売し、チケットで購入することとした。手間が省けた上に集計が容易となった。

また、テント内や飲食ブースが暗いこともあり、LEDライトの増設や公民館2階からの照明を増やし、提灯の配置も明るくなるよう工夫した。

簡易ステージでは、トラックを使用していることもあり、ステージ演目の際に落下の危険性があるため、単管を増設し、安全性の確保に努めた。



当日の様子

昨年度交付金事業にて購入したのぼり旗を各集落センターに設置したほか、公民館への入り口通路に設置し、周知を図った。



のぼり旗の設置（公民館入口）

夏まつりのチラシの作成や記録のために、カラープリンタ及びデジタルカメラを購入。また、例年乾側地区体育協会と乾側小学校のテントを借用しているが、今後の必要性も鑑み、テント1張りを購入。飲食ブース及び販売ブースの机（外用）が老朽化しており、危険なため、折りたたみ机を14脚購入。



夏まつりチラシ

○視察研修（京都市伏見区醍醐寺）

開催日時 令和元年11月16日（土）

午前7時30分から午後6時

参加者数 28人

乾側小学校と京都市伏見区醍醐寺及び醍醐小学校との交流が10周年を迎えた。醍醐の桜の記念植樹も学校行事で実施している。毎年、醍醐小学校児童が田植えに来訪し、収穫したもち米を醍醐寺及び醍醐小学校に奉納しているが、10周年とのことで、乾側小学校全校児童及び保護者も訪問し、もち米の奉納のほか、乾側地区の伝統芸能である「雨乞い踊り」を醍醐寺にて奉納することとなった。これを機に、乾側地区としても交流を図るべく、地区民も醍醐寺を訪問した。

当日は、醍醐寺の方に特別に案内をしてもらったほか、奉納の様子を見学することができ、交流を図ることができた。



もち米奉納



雨乞い踊り奉納

4 事業の成果

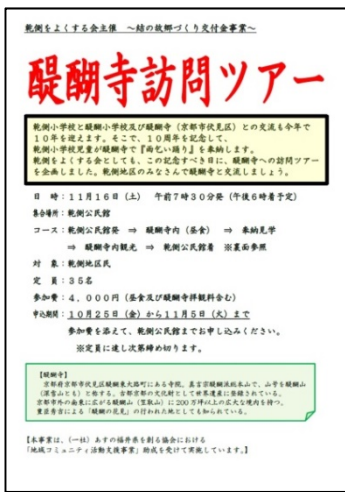
今年度は、昨年度と同様の事業を実施したほか、地域活力事業として醍醐寺へ訪問した。

普及啓発・伝承事業、登山道・史跡整備事業では、天候により、史跡巡りウォークは実施できなかったものの、登山道の整備を実施し、地区に誇る史跡を守り、史跡を訪れた方への啓発につながっている。

観光促進事業では、台風により案内看板が破損するなど、予期せぬことが起こったが、復旧することができ、牛ヶ原駅を訪れた方の観光意欲の促進を図ることができた。

地域活力事業では、再開から4回目を迎えた夏まつりを盛大に実施できた。昨年度の反省点などを踏まえ、より多くの地区の方々が楽しめる工夫をし、来場者も楽しんでいった。例年どおり乾側小学校児童による出店も行い、地域との交流を図ることができた。乾側をよくする会を中心として、女性の会、乾側小学校とも協力しながら地区の夏の一大イベントとして開催することができ、地域の活性化を図ることができた。

醍醐寺への訪問は、これまで乾側小学校が実施してきた醍醐寺及び醍醐小学校（京都市）と



チラシ



集合写真

の交流が10周年を迎え、これまでの交流を地区全体に広く周知するとともに、これからは小学校だけでなく地区として交流を深めていくきっかけになった。

どの事業も乾側地区住民の世代を超えた交流の活性化を図り、歴史文化を守り育てることへの意識を高めることができた。

## 5 今後の展望

現在、交付金にかかる事業を、乾側をよくする会が中心となって実施してきているが、参加人数が増えていないことが課題である。より多くの住民が参加する、もしくは携わる仕掛けが必要である。地区住民が地区の課題に向き合い、自ら取り組むことができる環境を整えることが、地区を活性化する方法であると考えます。

また、地区内にこだわらず、地区外からの参加も誘発しながら、地区の魅力を外にも伝え、地区内を活性化させることも必要ではないかと考える。